

女子学生の被服行動と職業におけるライフスタイルとの関連

| | |
|-----|---|
| 著者 | 高岡 朋子 |
| 雑誌名 | 北海道女子短期大学研究紀要 |
| 巻 | 30 |
| ページ | 41-55 |
| 発行年 | 1994 |
| URL | http://id.nii.ac.jp/1136/00001579/ |

女子学生の被服行動と職業における ライフスタイルとの関連

College Students' Clothing Behavior and Their Dress Images for Various Occupations

高 岡 朋 子

Tomoko TAKAOKA

I 緒 言

服装は非言語情報伝達（ノンバーバルコミュニケーション）として、様々な情報を語る。その人の基本的属性である性差、年齢、職業、社会的役割や地位、あるいは性格、価値観、美意識までも物語る。すなわち服装からその人のライフスタイルを推測することが可能なのである。ライフスタイルとは、人々の生活、行動、思考などの差異を示すものとして、パーソナリティーを中核とする社会的性格、態度、価値観、欲求などの潜在的要因と、衣・食・住の生活、レジャー行動、マスコミ接触や生活時間の配分パターンなどの顕在的要因とからなる複合的な概念である。従来、企業は消費者を単に商品の買い手としかみていなかったのが、生活水準の向上に伴い、物を購入所有するとき、消費者は自分の生活設計にどのような意味があるかを考えはじめた。また現代の消費社会では商品が量的にも、心理的にも飽和状態であり、企業は消費者の欲求の多様化と個性化に対応して新しい市場の開拓をはかる必要があった。こうして、ライフスタイル概念は1960年代にマーケティングの分野で導入されていらい、消費者行動の研究や社会学、心理学に広く用いられるようになった。¹⁾²⁾

被服行動の分野でも、男子大学生や、³⁾勤労者を対象にライフスタイル概念をとりいれた研究が行われており、基本属性やライフスタイル特性の差異が着装態度の各タイプの差異を説明するのに有効であることを明らかにしている。⁴⁾

本報は、ライフスタイル特性の一要因である職業観に視点をあて、女子学生が自分のライフサイクルの中で職業をどのようにとらえ、この意識の相違が外見上の服装にどの程度に表出するかの知見を得ることを目的に、女子学生の職業意識、働く女性（キャリアウーマン）と専業主婦のイメージと服装スタイル、および日常の被服行動と職業意識との関連を検討した。

II 調査方法および解析方法

調査は1994年6月、女子学生1年生716名（北海道S短大教養学科86名、H短大服飾美術科服飾コース93名、家庭科学コース80名、工芸美術科34名、保健体育科体育コース49名、養護コース70名、初等教育学科92名、経営情報学科55名、H大学文学部英文学科72名、東京都F大学

家政学部服装学科84名)を対象に質問紙調査法により行った。以下教養科,服飾コース,家庭コース,工芸科,体育コース,養護コース,初等科,経情科,英文科,服装科と記す。調査項目は①女子学生の職業意識(考え方8項目4段階尺度,姿勢5項目,職業選択時の重視項目8項目,希望職種16項目),②キャリアウーマンと専業主婦にたいするSD法(20の形容詞対,5段階尺度)によるイメージと服装のスタイル,③日常の被服行動(23項目,4段階尺度)である。

解析方法は単純集計のほか,職業意識についての質問項目は度数の検定と平均値の差の検定,日常の被服行動についての質問項目は因子分析(主因子法,バリマックス回転)と平均値の差の検定による統計処理を行った。

Ⅲ 結果および考察

1. 女子学生の職業意識

家事労働の軽減,合理化に伴い,就業意欲の高まりとともに,女性の職場進出は増加している。昭和61年に募集・採用から定年・退職までの雇用の各ステージにおける男女の均等な機会および待遇の確保を促進し,女子労働者の福祉の増進と地位の向上を図ることを目的に男女雇用機会均等法⁵⁾が施行された。以後女性の就業率は平成2年には,労働人口全体の40.6%を占めており,その増加率は男性を上回っている。また女性の労働力率は55年47.6%,60年48.7%,2年50.1%と着実に上昇している⁶⁾。

このような社会状況下で,女子学生はどのような職業意識をもっているのかを探るため,仕事に対する考え方8項目,仕事に対する姿勢5項目,職業選択時に重視すること8項目,希望する職種17項目について質問を行った。

1) 仕事に対する考え方

女子学生の仕事に対する考え方として仕事重視志向か趣味生活志向かの8項目について,思うから全く思わないの4段階で質問をした。結果を表1に示す。

平均値が高い項目は,仕事よりも趣味の生活を大切にしたい(3.06)で,低い項目は,私生

表1 仕事にたいする考え方

| 項 目 | / 人 数 | 平均値 | 標準偏差 |
|-------------------------|-------|------|------|
| 女性に家において,家事をするのが当然である | 715 | 1.98 | 0.88 |
| 女性も男性と同様に社会に出て仕事をすべきである | 714 | 2.99 | 0.79 |
| 残業が多くともやり甲斐のある仕事をしたい | 714 | 2.94 | 0.92 |
| 仕事は忙しくとも収入の多いほうがよい | 713 | 2.83 | 0.82 |
| 収入は多くないが,仕事は楽なほうがよい | 712 | 2.13 | 0.74 |
| 仕事に成功して社会的地位を上げたい | 711 | 2.61 | 0.85 |
| 仕事よりも余暇や趣味の生活を大切にしたい | 703 | 3.06 | 0.73 |
| 私生活を犠牲にしても仕事に打ち込む | 713 | 1.64 | 0.70 |

活を犠牲にしても仕事に打ち込む(1.64)であった。NHK放送文化研究所「日本人の意識調査⁷⁾」で仕事と余暇のどちらに生きがいを感じるかを調査しているが,仕事志向は48年43.9%から63年には31.2%と減少傾向を示し,仕事と余暇の両立を目指すものは48年20.9%,63年31.2%と増加し,若者ほど「両立を図る」者が多い。表1より被験者は趣味生活志向であることが分かったが,残業が多くともやり甲斐のある仕事,仕事は忙しくとも収入の多いほうが,など「仕事⁷⁾が楽」なよりも高く反応しており,仕事に対して積極的に取り組む姿勢が見受けられた。

表2 仕事にたいする姿勢の専攻別度数分布

(%)

| 項 目 / | 教養科 | 服飾コース | 家庭コース | 工芸科 | 体育コース | 養護コース | 初等科 | 経情科 | 英文科 | 服飾科 | 合 計 |
|---------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|------------|
| 結婚退職型 | 12(1.7) | 13(1.8) | 21(2.9) | 2(0.3) | 3(0.4) | 8(1.1) | 6(0.8) | 6(0.8) | 6(0.8) | 5(0.7) | 82(11.5) |
| キャリア志向型 | 8(1.1) | 14(2.0) | 7(1.0) | 15(2.1) | 15(2.1) | 14(2.0) | 26(3.6) | 6(0.8) | 19(2.7) | 19(2.7) | 143(20.1) |
| 家庭回帰型 | 19(2.7) | 14(2.0) | 13(1.8) | 2(0.3) | 3(0.4) | 9(1.3) | 9(1.3) | 9(1.3) | 9(1.3) | 15(2.1) | 102(14.3) |
| 再就職型 | 44(6.2) | 43(6.0) | 37(5.2) | 14(2.0) | 27(3.8) | 33(4.6) | 47(6.6) | 31(4.3) | 32(4.2) | 41(5.8) | 349(48.9) |
| その他 | 3(0.4) | 9(1.3) | 2(0.3) | 1(0.1) | 1(0.1) | 5(0.7) | 4(0.6) | 3(0.4) | 6(0.8) | 3(0.4) | 37(5.2) |
| 合 計 | 86(12.1) | 93(13.0) | 80(11.2) | 34(4.8) | 49(6.9) | 69(9.7) | 92(12.9) | 55(7.7) | 72(10.1) | 83(11.6) | 713(100.0) |

 $\chi^2=75.4674$ $P<.001$

平成6年に北海道生産性本部が行った「働くことの意識調査」では、仕事への積極姿勢をみせる新入社員が目立ち、「デートの約束があった時に残業を命じられたらどうするか」の質問に「デートをやめて残業」と男性85.5%，女性91.2%が答え女性の方が仕事を重視していた。バブル期には仕事は楽なほうが良いとしていたのが、最近の景気の低迷を反映して希望と現実の違いをわきまえ意識はバブル以前に戻ったとしている⁸⁾。入学したばかりの被験者にも仕事に対する積極性がみられることから、今後景気の急激な上昇が見られない限り、仕事重視志向が増加するものと思われる。

つぎに、総理府「女性に関する世論調査」によると「男は仕事、女は家庭」という固定的な役割分担の考え方に同感する男性34.7%，女性25.1%，同感しない男性34.0%，同感しない女性43.2%となっている。被験者は、家にいて家事をするのが当然（1.98）と役割分担に同感するものが4段階尺度を%に直すと49.5%，男性と同様に社会に出る（2.99）とした役割分担に同感しないものが74.8%と、全国調査よりも被験者は女性の社会進出を当然のことと考えていることが判明した。

2) 仕事に対する考えと姿勢との関連

大学卒業後、多くの女子学生は職業に従事するのであるが、女性のライフサイクルの中で職業人生、すなわち職業におけるライフスタイルをどのように考えているかを質問し、その結果を表2に示す。「子供に手がかからなくなったら再び仕事をする」が48.9%と、約半数の被験者は育児期間は一旦家庭に入り、子供に手がかからなくなったら再就職をすることを望む再就職型であった。つぎに多かったのは「一生仕事を続ける」が20.1%、全体の約2割の被験者がキャリア志向型であった。専攻別には工芸科のうち44.1%，初等科のうち28.2%，英文科と服飾科の4年生大学の被験者のうちの26.4%，22.9%にキャリア志向がみられた。工芸科は専門が個人の意志で続けていくことが可能なために、初等科は小学校教諭、幼稚園の教師になるための目的学科であり、職業に対してははっきりした目標をもっているために、ともに他学科よりも高く表出したものと考えられる。

また「仕事は結婚までの一時的なものでよい」とした結婚退職型の被験者は家庭コース、教養科に多かった。女子高校生を対象に行った調査¹⁰⁾では、将来に関して「結婚したら仕事をやめて、専業主婦になりたい」という専業主婦派は、4年生大学への進学志望者で36.2%，短大志望者

表3 仕事に対する考え方と姿勢のクロス集計結果

| | 結婚退職型 | | キャリア志向型 | | 家庭回帰型 | | 再就職型 | |
|-------------------------|-------|------|---------|------|-------|------|------|------|
| | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 |
| 女性は家において家事をするのが当然である | 2.63 | 0.94 | 1.61 | 0.81 | 2.21 | 0.91 | 1.91 | 0.76 |
| 女性と男性と同様に社会に出て仕事をすべきである | 2.38 | 0.76 | 3.40 | 0.70 | 2.78 | 0.78 | 3.05 | 0.72 |
| 残業が忙しくともやり甲斐のある仕事がしたい | 2.42 | 1.10 | 3.34 | 0.84 | 2.77 | 0.89 | 2.97 | 0.86 |
| 仕事は忙しくとも収入の多いほうがよい | 2.49 | 0.85 | 2.99 | 0.82 | 2.73 | 0.83 | 2.87 | 0.78 |
| 収入は多くないが、仕事は楽なほうがよい | 2.50 | 0.76 | 1.98 | 0.80 | 2.21 | 0.69 | 2.11 | 0.69 |
| 仕事に成功して社会的地位をあげたい | 2.05 | 0.75 | 3.09 | 0.82 | 2.38 | 0.77 | 2.61 | 0.80 |
| 仕事よりも余暇や趣味の生活を大切にしたい | 3.29 | 0.74 | 2.91 | 0.78 | 3.21 | 0.82 | 3.01 | 0.66 |
| 私生活を犠牲にしても仕事に打ち込む | 1.38 | 0.60 | 2.01 | 0.82 | 1.48 | 0.68 | 1.60 | 0.63 |

表4 仕事に対する考え方と姿勢の各項目での t 検定結果

| 項 目 | 結婚退職型 & キャリア志向型 | | 結婚退職型 & 家庭回帰型 | | 結婚退職型 & 再就職型 | | キャリア志向型 & 家庭回帰型 | | キャリア志向型 & 再就職型 | | 家庭回帰型 & 再就職型 | |
|-------------------------|-----------------------|--------|---------------------|--------|--------------------|--------|-----------------------|--------|----------------------|--------|--------------------|-------|
| | t 値 | 有意水準 | t 値 | 有意水準 | t 値 | 有意水準 | t 値 | 有意水準 | t 値 | 有意水準 | t 値 | 有意水準 |
| | | | | | | | | | | | | |
| 女性は家において、家事をするのが当然である | 8.239 | P<.001 | 3.090 | P<.01 | 6.460 | P<.001 | 5.303 | P<.001 | 3.772 | P<.001 | 3.012 | P<.01 |
| 女性も男性と同様に社会に出て仕事をすべきである | 9.938 | P<.001 | 3.461 | P<.001 | 7.196 | P<.001 | 6.446 | P<.001 | 5.050 | P<.001 | 3.135 | P<.01 |
| 残業が多くともやり甲斐のある仕事がしたい | 7.023 | P<.001 | 2.467 | P<.05 | 4.583 | P<.001 | 5.079 | P<.001 | 4.427 | P<.001 | 2.017 | P<.05 |
| 仕事は忙しくとも収入の多いほうがよい | 4.264 | P<.001 | 1.901 | — | 3.706 | P<.001 | 2.410 | P<.05 | 1.451 | — | 1.543 | — |
| 収入は多くないが、仕事は楽なほうがよい | 4.847 | P<.001 | 2.687 | P<.01 | 4.280 | P<.001 | 2.367 | P<.05 | 1.694 | — | 1.261 | — |
| 仕事に成功して社会的地位をあげたい | 9.225 | P<.001 | 2.932 | P<.01 | 5.888 | P<.001 | 6.525 | P<.001 | 5.534 | P<.001 | 2.540 | P<.05 |
| 仕事よりも余暇や趣味の生活を大切にしたい | 3.673 | P<.001 | 0.735 | — | 3.168 | P<.01 | 2.813 | P<.01 | 1.376 | — | 2.163 | P<.05 |
| 私生活を犠牲にしても仕事に打ち込む | 6.563 | P<.001 | 1.078 | — | 3.000 | P<.01 | 5.437 | P<.001 | 5.266 | P<.001 | 1.599 | — |

(注) —有意差なし

は57.3%であり、進路希望先で差があった。またこの結果と、今回の調査で4年制女子学生にキャリア志向型が多くみられたこととは一致しているが、短大の女子学生であっても専門によりキャリア志向型がみられたことで、職業にたいする姿勢は専門により異なることが推察される。

つぎに仕事に対する考えと姿勢との関連を検討した結果を表3、4に示す。

被験者に一番多い再就職型は男性と同様に社会に出て仕事をすべきで、やり甲斐のある仕事をしたいとしており、仕事に対して積極的な姿勢がみられるが、仕事よりも余暇や趣味の生活を大切にしたいとしており、仕事と趣味生活の両立を図る意向が伺われる。

また「仕事は結婚までの一時的なもの」とした結婚退職型と「仕事を一生続ける」としたキャリア志向型を比較した場合、危険率1%で有意差が認められたことから明らかなように、結婚退職型の被験者は、仕事よりも余暇や趣味の生活を大事にし、家において家事をすることが当然と思うが高く、私生活を犠牲にしても仕事に打ち込む割合が少ない趣味生活志向であった。これに対しキャリア志向型は、男性と同様に社会に出て仕事をすべきであり、残業が多くても

表5 希望する上位6職種（専攻別）

（％）

| 職 種／専攻別 | 教養科 | 服飾コース | 家庭コース | 工芸科 | 体育コース | 養護コース | 初等科 | 経情科 | 英文科 | 服装科 | 合 計 |
|-------------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|------------|
| 教員 | 1 (0.1) | 13 (1.8) | 16 (2.2) | 8 (1.1) | 30 (4.2) | 50 (7.0) | 89 (12.4) | 1 (0.1) | 15 (2.1) | 0 (0.0) | 223 (31.2) |
| 一般事務 | 12 (1.7) | 5 (0.7) | 11 (1.5) | 0 (0.0) | 0 (0.0) | 0 (0.0) | 0 (0.0) | 12 (1.7) | 5 (0.7) | 2 (0.3) | 47 (6.6) |
| 公務員 | 11 (1.5) | 5 (0.7) | 11 (1.5) | 1 (0.1) | 3 (0.4) | 4 (0.6) | 1 (0.1) | 13 (1.8) | 4 (0.6) | 3 (0.4) | 56 (7.8) |
| 運輸・観光 | 42 (5.9) | 0 (0.0) | 5 (0.7) | 0 (0.0) | 0 (0.0) | 1 (0.1) | 0 (0.0) | 10 (1.4) | 30 (4.2) | 2 (0.3) | 90 (12.6) |
| 繊維・ファッション関係 | 0 (0.0) | 40 (5.6) | 1 (0.1) | 2 (0.3) | 0 (0.0) | 0 (0.0) | 0 (0.0) | 0 (0.0) | 1 (0.1) | 49 (6.9) | 93 (13.0) |
| 広告・デザイン関係 | 2 (0.3) | 9 (1.3) | 4 (0.6) | 12 (1.7) | 1 (0.1) | 0 (0.0) | 0 (0.0) | 1 (0.1) | 3 (0.4) | 12 (1.7) | 44 (6.2) |

やり甲斐のある仕事をしたい、私生活を犠牲にしても仕事に打ち込むなど、仕事重視志向であった。

3) 職業選択時の重視項目と希望する職種および仕事に対する姿勢との関連

就職先を選択するとき、なにを重要視するのかを8項目中2項目に回答してもらう。結果、回答率の高い項目は、してみたい職業であること36.1％、自分の能力を生かせること29.7％、給料がよいこと15.4％であり、専攻別による違いはみられなかった。被験者は収入よりも自分の能力を生かすことや興味のある職業につきたいと思っている。

また希望する職種を選んでももらったところ、教員が226名 (31.2％)¹¹⁾、繊維ファッション関係93名 (13.0％)、運輸・観光関係90名 (12.6％)、公務員56名 (7.8％)、広告・デザイン関係、が上位6職種であった。この上位6職種と就職選択時との関連を検討した結果 ($\chi^2 = 147.1338$ $p < .001$)、一般事務を選択した被験者は、給料がよいことを最も重視する項目としているのに対して、他の職種を選んだ被験者は、高い項目順から自分の能力が生かせること、してみたい職業であること、給料がよいこと、であった。

さらに希望する上位6職種の専攻別に検討した結果を表5に示す。

希望する専攻別に職種が明瞭に異なり、被験者は専門を生かした職業を希望していることがわかった。初等科、養護コースに教員志望が多いのは、両学科とも教員になるための目的学科であるために、また専門に近い服飾コースと服装科に繊維ファッション関係希望が多く、ともに学業と職業を結びつけて選択していることが分かった。運輸・観光関係とは、各種旅行会社やホテル業が該当し、教養科、英文科、経情科の被験者が希望している。これは教養科は観光コースがあるため、英文科は英語を生かす場所として、経情科は学科目の中に観光学があるために選んでいると思われる。さらに広告・デザイン関係が工芸科と服装科に多いのもデザイン関係の学科目を生かす職業として選んでいるためと思われる。一般事務と公務員は同じ割合で教養科、服飾コース、家庭コース、経情科の被験者に選ばれていた。

つぎに希望する上位6職種と仕事に対する姿勢との関連性を表6に示す。

どの職種も約半数近く、再就職型が多かった。他の特徴としてキャリア志向型の被験者が多く選択した職種は、広告デザイン関係27.3％、教員27.1％であり、服装科と初等科の被験者が多くこの職種を希望していた。これは両学科にキャリア志向型が多く見受けられたための結果である。また「子供が生まれたら仕事をやめる」とした、家庭回帰型の被験者が多く選択した

職種は公務員20%，

表6 希望する職種（上位6種）と仕事に対する姿勢との関連 (%)

繊維ファッション

関係19.6%で，結

婚退職型の被験者

が多く選択したも

のは運輸・観光関

係で15.6%であっ

た。

2. キャリアウーマンと専業

主婦のイメージ調査とその

服装

1) キャリアウーマンと専業主婦のイメージ調査

女性の高学歴化が進み社会で活躍する女性が増加し，従来の職業婦人をキャリアウーマンという新しい呼び方で一般化しているが，職業人と家庭人とは，女性のライフサイクルの中で生き方としてどちらか一方，あるいは両立かの決断を迫られる概念として捉えられる。

この概念を表すキャリアウーマンと専業主婦という言葉に対するイメージをSD法により測定した結果を図1に示す。

キャリアウーマンの平均評点が高かった項目は，はなやかな，動的な，きつい，新しい，男っぽい，活動的な，派手な，個性的なであった。専業主婦に高い項目は，普通な，優しい，女っぽい，くつろいだ，温かいであった。キャリアウーマンと専業主婦の平均評点に対してt検定を行ったところ全ての形容詞対に0.1%の危険率で有意差が認められ，対立する概念として捉えられていることが分かった。

つぎに20の形容詞対を変数に716名の被験者を観測回数に相関行列を算出し，キャリアウーマンと専業主婦に内在する基本的な因子の抽出を試みた。この場合，キャリアウーマンと専業主婦の評定値を別々に因子分析をかけ，固有値1.0以上とともに8因子抽出された。バリマックス回転後の累積寄与率はキャリアウーマンは61.83%，専業主婦は64.74%であり，因子の解

| 項 目 / 教 員 | 一 般 事 務 | 公 務 員 | 運 輸 ・ 観 光 | 織 維 ・ シ ン ファッショ ン 関 係 | 広 告 ・ シ ン デザイ ン 関 係 | |
|-----------|------------|-----------|-----------|--------------------------|------------------------|-----------|
| 結婚退職型 | 15(6.7) | 10(4.7) | 3(5.4) | 14(15.6) | 8(8.7) | 6(13.6) |
| キャリア志向型 | 60(27.1) | 3(6.3) | 10(17.9) | 12(13.3) | 16(17.4) | 12(27.3) |
| 家庭復帰型 | 27(12.2) | 10(4.7) | 11(20.0) | 13(14.4) | 18(19.6) | 1(2.3) |
| 再就職型 | 108(48.9) | 24(51.6) | 29(52.1) | 47(52.2) | 44(47.8) | 23(52.3) |
| その他 | 11(5.0) | 0(0.0) | 3(6.3) | 4(4.4) | 6(6.5) | 2(4.5) |
| 合 計 | 221(100.0) | 47(100.0) | 56(100.0) | 90(100.0) | 92(100.0) | 44(100.0) |

$$\chi^2=38.6068 \quad P<.01$$

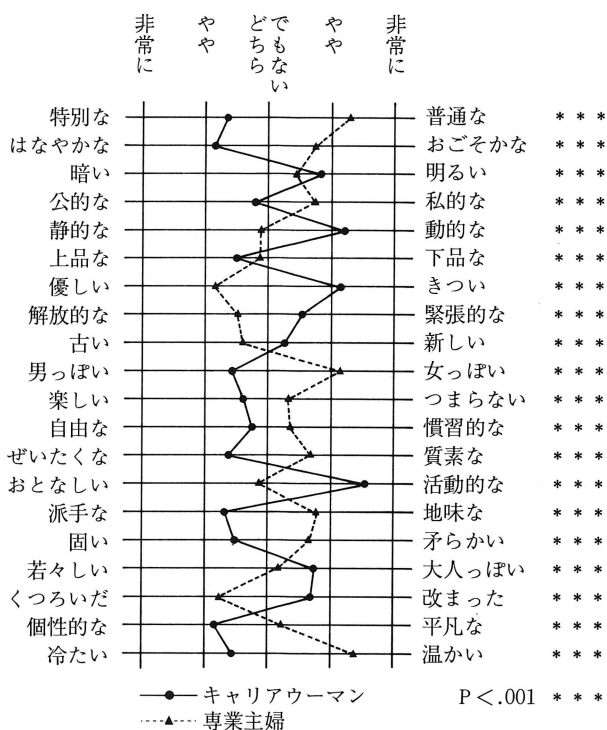


図1 キャリアウーマンと専業主婦のイメージプロフィール (平均評点)

積がしやすかった専業主婦の因子分析結果を表7に示す。主要な因子として因子1は「人柄評価性」, 因子2は「活動性」の因子, 因子3は「一般性」, 因子4は「伝統性」の因子と解釈した。

以上の結果からキャリアウーマンは性格的にはきつく活動的な雰囲気, 生き方としては個性的で新しいイメージで捉えられており, 専業主婦は性格的に優しくおとなしい雰囲気, 生き方として平凡で古いイメージで捉えられていることが判明した。

2) キャリアウーマンと専業主婦の服装イメージ

ライフスタイルが違う職業をもつ女性の服装と, 家庭にいて主婦業をする女性の服装について被験者はどのように捉えているのかを, 外出時のキャリアウーマンと専業主婦についてイメージする服装を記入してもらった結果を表8に示す。この場合, キャリアウーマンの服種を除き10名前後を表記した。キャリア

アウーマンの服種としてスーツが

94.4%と圧倒的に多く, 洋服の柄としては無地73.1%, 次にストライプ5.8%とシンプルな服装イメージであった。

一方, 専業主婦はトレーナー, Tシャツとジーンズの組合せが19.9%, エプロン, スーパーやバーゲンで買った普段着とラフで機能的な衣服が多い。矢尻らのふだん着の調査では, トレーナー, Tシャツとジーンズのふだん着は

表7 専業主婦の因子分析結果

| 形 容 詞 対 | | 因子1 | 因子2 | 因子3 | 因子4 |
|----------|----------|-------|-------|-------|-------|
| 上品な | —— 下品な | -0.66 | 0.33 | 0.21 | 0.08 |
| 優しい | —— きつい | -0.76 | -0.00 | 0.00 | -0.09 |
| 男っぽい | —— 女っぽい | 0.65 | -0.29 | 0.19 | 0.01 |
| 固い | —— 柔らかい | 0.54 | 0.17 | 0.04 | -0.08 |
| 冷たい | —— 温かい | 0.68 | 0.17 | 0.38 | 0.04 |
| 暗い | —— 明るい | 0.36 | 0.53 | -0.04 | -0.04 |
| 静的な | —— 動的な | -0.07 | 0.80 | 0.02 | -0.10 |
| おとなしい | —— 活動的な | -0.12 | 0.76 | -0.17 | -0.03 |
| 特別な | —— 普通な | 0.15 | 0.14 | 0.59 | -0.15 |
| 派手な | —— 地味な | 0.08 | -0.21 | 0.54 | 0.28 |
| 個性的な | —— 平凡な | 0.06 | -0.12 | 0.79 | 0.19 |
| 古い | —— 新しい | 0.10 | 0.20 | -0.30 | -0.45 |
| 楽しい | —— つまらない | -0.30 | -0.28 | 0.32 | 0.54 |
| 自由な | —— 慣習的な | 0.06 | -0.03 | 0.07 | 0.73 |
| ぜいたくな | —— 質素な | 0.12 | 0.02 | 0.06 | 0.66 |
| 寄与率(%) | | 12.51 | 9.97 | 8.61 | 8.55 |
| 累積寄与率(%) | | 12.51 | 22.48 | 31.09 | 39.63 |

表8 キャリアウーマンと専業主婦のイメージスタイル

N=715(%)

| | 服 種 | | 洋 服 の 柄 | | く つ | | バ ッ グ | |
|--------------------------------------|-----------------|-----------|----------|-----------|------------|-----------|---------------|-----------|
| キ ヤ リ ア ウ ー マ ン | ス ー ツ | 675(94.4) | 無 地 | 523(73.1) | ハイヒール | 456(63.8) | ショルダー | 162(22.7) |
| | ジ ー パ ン | 2(0.3) | ストライプ | 56(5.8) | パンプス | 138(19.3) | ブランド品 | 158(22.1) |
| | タイトスカート | 1(0.1) | 派 手 | 22(3.1) | ローヒール | 23(3.2) | ビジネスバック | 113(15.8) |
| | ミニスカート | 1(0.1) | 花 柄 | 13(1.8) | ローファー | 10(1.4) | ハンドバック | 79(11.1) |
| 専 業 | | | シンプルな柄 | 13(1.8) | シ ン プ ル | 5(0.7) | 皮 製 品 | 44(6.2) |
| | | | チ ョ ッ ク | 7(0.9) | | | セ カ ン ド | 14(2.0) |
| | | | | | | | 機能的なもの | 9(1.3) |
| | | | | | | | 形が四角 | 9(1.3) |
| | トレーナー・Tシャツ+ジーンズ | | 花 柄 | 287(40.1) | サンダル | 181(25.3) | 大きいバッグ | 96(13.4) |
| | | 142(19.9) | 無 地 | 157(22.0) | 運動靴(スニーカー) | 161(22.5) | 買物袋・バッグ | 76(10.6) |
| | エ プ ロ ン | 81(11.4) | 色々なもの | 57(8.0) | ローヒール | 118(16.5) | 手 さ げ | 68(9.5) |
| | スーパーやバーゲンなどで | | プリント風 | 25(3.5) | パンプス | 41(5.8) | 布のバッグ | 53(7.4) |
| | 買った普段着 | 80(11.2) | 水 玉 | 19(2.7) | ヒールなし | 28(3.9) | バ ッ グ | 53(7.4) |
| | ブラウス・Tシャツ+スカート | | チ ョ ッ ク | 18(2.5) | ハイヒール | 21(2.9) | 買物かご | 48(6.7) |
| 主 婦 | | 52(7.3) | 地 味 | 15(2.1) | ローファー | 18(2.5) | きんちゃく | 45(6.3) |
| | ラフな服 | 36(5.0) | ストライプ | 13(1.8) | カジュアルシューズ | 11(1.5) | ショルダー | 45(6.3) |
| | ワンピース | 35(4.8) | シックな柄 | 12(1.7) | 歩き易いもの | 10(1.4) | セカンドバッグ(ナイロン) | 38(5.3) |
| | セーター+スカート | 33(4.6) | 派 手 | 8(1.1) | 色 ャ | 9(1.3) | 小さいバッグ | 19(2.7) |
| | ジャージ・ニット・スエット | | キャラクターもの | 7(0.9) | | | ポ ー チ | 12(1.7) |
| 婦 | | 29(4.0) | | | | | ブランド品 | 12(1.7) |
| | フレアスカート | 24(3.4) | | | | | | |
| | ロングスカート | 22(3.1) | | | | | | |
| | 活動的な服 | 19(2.7) | | | | | | |
| | パンツルック | 16(2.2) | | | | | | |
| | 決まっていない | 14(2.0) | | | | | | |

スーパーなど近距離への外出時に着用する衣服として捉えられている。専業主婦の外出時の服装イメージと同じ服種であったことから、被験者は専業主婦の外出をスーパーなどの近郊に着用する衣服として考えていたものと思われる。

また洋服の柄としては花柄のイメージが40.1%, 無地22.0%, 色々なもの8%とキャリアウーマンと比較すると柄物を多く着用するイメージがあった。靴はキャリアウーマンではハイヒール, パンプスとヒールのあるものを, 専業主婦はサンダル, スニーカーなどヒールの低いものを, またバッグはキャリアウーマンではショルダー, ブランド品, ビジネスバッグなどの高級な皮革製品を, 専業主婦は買い物袋や手下げで布製品の機能的なものを持っていると捉えていた。

以上の結果からキャリアウーマンのイメージはスーツにハイヒール, ブランドのバッグとステレオタイプ化した回答であった。一方専業主婦は外出時であってもトレーナー・Tシャツにジーパンなどふだん着を着用し, 靴はスニーカー, 大きな布製のバッグと近郊のスーパーなどに買物に行くスタイルのイメージであった。

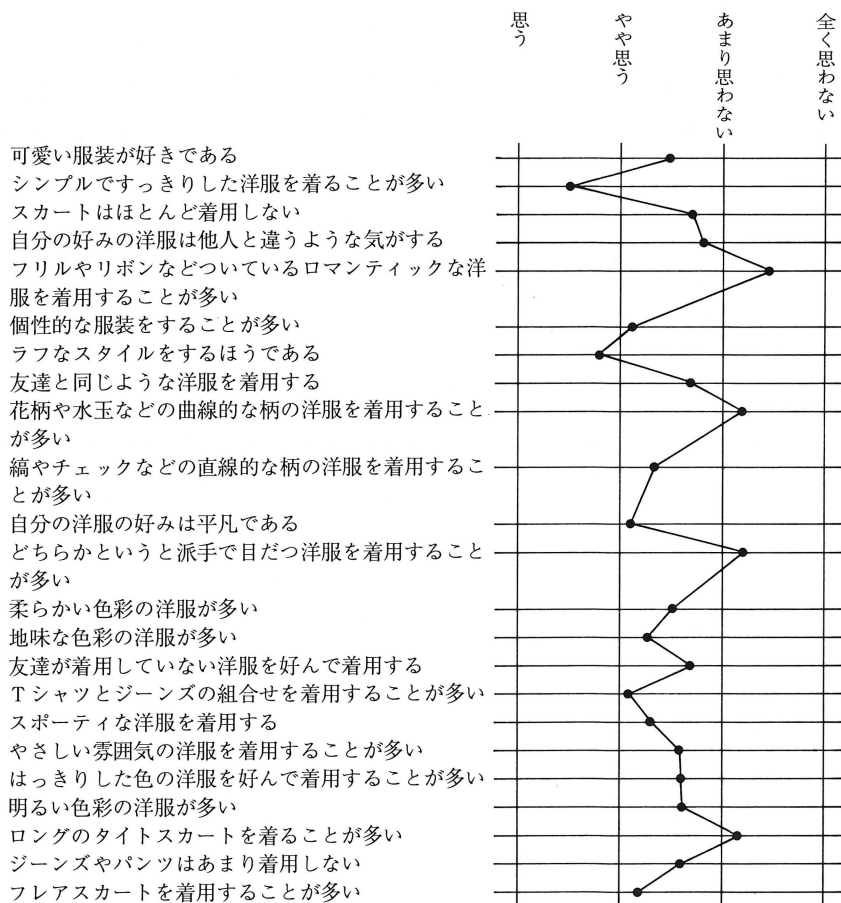


図2 日常の被服行動についての平均値

3. 日常の被服行動と仕事に対する考えおよび姿勢との関連

1) 日常の被服行動について

図2は日常の被服行動についての質問項目に対して、被験者が回答した平均評点をプロットしたものである。肯定的な回答が多かった項目は、シンプルですっきりした洋服を着ることが多い、ラフなスタイルをするほうであり、否定的な回答が多かった項目は、フリルやリボンなどついているロマンティックな洋服を着用することが多い、花柄や水玉などの曲線的な柄の洋服を着用することが多い、どちらかというと派手で目だつ洋服を着用することが多い、ロングのタイトスカートを着ることが多い、であった。被験者が日頃好んで着用する洋服は、ラフでスッキリした洋服であり、柄物や装飾の多い女性的な洋服はあまり着用しない傾向にあった。

つぎに23個の質問項目を変数に、716人の被験者を観測回数にして、各個人の評定から相関行列を算出し、因子分析により、日常の被服行動についての基本的因子を抽出した。バリマックス回転後の因子行列を表9に示す。この場合の因子の抽出基準は固有値1.0以上とし、8因子抽出され、累積寄与率は59.7%であった。これらの各因子の意味の解釈は因子負荷量をもと

表9 日常の被服行動についての因子分析結果

| 項 目 | / | 因子1 | 因子2 | 因子3 | 因子4 | 因子5 | 因子6 | 因子7 | 因子8 |
|------------------------------------|---|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| ラフなスタイルをするほうである | | -0.68 | 0.13 | 0.14 | -0.18 | 0.05 | -0.05 | 0.04 | -0.02 |
| Tシャツとジーンズの組合せが多い | | -0.81 | 0.07 | -0.09 | -0.12 | -0.01 | -0.06 | -0.03 | 0.06 |
| スポーティな洋服を着用することが多い | | -0.80 | 0.00 | -0.04 | -0.05 | -0.02 | -0.04 | 0.04 | -0.04 |
| ジーンズやパンツはあまり着用しない | | 0.43 | -0.03 | 0.02 | 0.46 | -0.01 | 0.07 | 0.08 | 0.02 |
| 自分の好みの洋服は他人と違うような気がする | | -0.07 | -0.73 | 0.02 | -0.08 | 0.09 | 0.26 | 0.07 | 0.16 |
| 個性的な服装をすることが多い | | 0.11 | -0.60 | -0.18 | 0.01 | -0.15 | 0.16 | -0.31 | -0.10 |
| 友達と同じような洋服を着用する | | -0.14 | 0.69 | -0.06 | -0.04 | 0.06 | 0.24 | -0.20 | 0.08 |
| 自分の洋服の好みは平凡である | | -0.33 | 0.58 | 0.16 | 0.02 | 0.24 | 0.13 | 0.05 | 0.17 |
| 友達が着用していない洋服を着用する | | -0.07 | -0.54 | -0.03 | 0.08 | 0.05 | -0.04 | -0.36 | -0.18 |
| 柔らかな色彩の洋服が多い | | -0.02 | 0.02 | 0.84 | -0.00 | -0.06 | -0.04 | -0.07 | 0.08 |
| やさしい雰囲気 of 洋服が多い | | 0.03 | -0.01 | 0.73 | 0.27 | -0.06 | 0.21 | -0.01 | 0.07 |
| はっきりした色の洋服を好んで着用することが多い | | -0.21 | -0.22 | -0.53 | 0.16 | -0.45 | 0.02 | -0.18 | 0.12 |
| スカートはほとんど着用しない | | -0.34 | 0.07 | -0.21 | -0.49 | 0.11 | -0.07 | 0.16 | 0.16 |
| ロングのタイトスカートを着ることが多い | | 0.07 | 0.03 | -0.05 | 0.72 | -0.09 | -0.14 | 0.03 | -0.01 |
| フレアスカートを着用することが多い | | 0.21 | 0.03 | 0.27 | 0.63 | 0.04 | 0.24 | 0.02 | -0.05 |
| 地味な色彩の洋服が多い | | -0.29 | -0.02 | 0.08 | 0.08 | 0.70 | -0.11 | -0.08 | 0.25 |
| 明るい色彩の洋服が多い | | -0.15 | -0.05 | 0.15 | 0.11 | -0.80 | 0.06 | -0.09 | 0.10 |
| 可愛い洋服が好きである | | 0.09 | 0.02 | 0.07 | -0.06 | -0.15 | 0.77 | 0.02 | -0.12 |
| フリルやリボンなどついているロマンティックな洋服を着用することが多い | | 0.16 | -0.15 | 0.05 | 0.33 | -0.02 | 0.57 | -0.11 | 0.01 |
| 花柄や水玉などの曲線的な柄の洋服を着用することが多い | | 0.20 | 0.05 | 0.21 | 0.31 | -0.01 | 0.25 | -0.47 | -0.07 |
| 縞やチェックなどの直線的な柄の洋服を着用することが多い | | -0.24 | 0.14 | 0.29 | -0.14 | 0.08 | -0.02 | -0.59 | -0.06 |
| どちらかというと派手で目立つ洋服を着用することが多い | | 0.21 | -0.15 | -0.22 | -0.01 | -0.33 | -0.03 | -0.57 | 0.05 |
| シンプルですっきりした洋服を着ることが多い | | 0.00 | 0.05 | 0.06 | -0.04 | 0.02 | -0.06 | 0.02 | 0.91 |
| 寄 与 率 (%) | | 11.27 | 9.38 | 8.50 | 7.68 | 6.96 | 5.67 | 5.51 | 4.73 |
| 累 積 寄 与 率 (%) | | 11.27 | 20.65 | 29.15 | 36.83 | 43.79 | 49.46 | 54.98 | 59.71 |

におこなった。第1因子はラフなスタイル、Tシャツとジーンズの組合せ、スポーティな洋服、さらにジーンズやパンツはあまり着用しないがマイナス方向であることから「スポーティ因子」と解釈した。第2因子は、負荷量がプラス方向として、友達と同じような洋服を、自分の洋服の好みは平凡、マイナス方向に自分の好みの洋服は他人と違う、個性的な服装をする、友達が着ていない洋服を着用する、で「平凡・個性的因子」と解釈した。第3因子は柔らかい色彩、やさしい洋服、はっきりした色の洋服を好んで着用することが多いがマイナスで、「女性的因子」と解釈した。第4因子はスカートはほとんど着用しないがマイナス、ロングのタイトスカートを着用、フレアスカートを着用する、で「スカート着用因子」と解釈した。

第5因子は「色彩に関する因子」、因子6は「可憐な洋服因子」、因子7は「地味な因子」、因子8は1項目であり因子としては成立しなかった。

つぎに、日常の被服行動について専攻別による特徴を明らかにするために、抽出された因子の中から、主要な因子すなわち第1因子から第4因子までの各因子ごとに個人別因子得点平均値を算出した。この場合、第1因子は因子負荷量がマイナスで抽出され、因子の解釈上、逆になるためプラスとマイナスを入れ替えた。結果を図3に示す。

因子1の「スポーティ因子」で因子得点平均値が高く抽出されたのは体育コース、工芸科であり、低く抽出されたのは服装科、服飾美術コース、すなわちスポーティな洋服を着用する傾向があるのは体育コース、着用しない傾向にあるのは服装科である。因子2の「平凡・個性的因子」では、因子負荷量がプラスなのは平凡な洋服の項目、マイナスなのは個性的な洋服を着用す

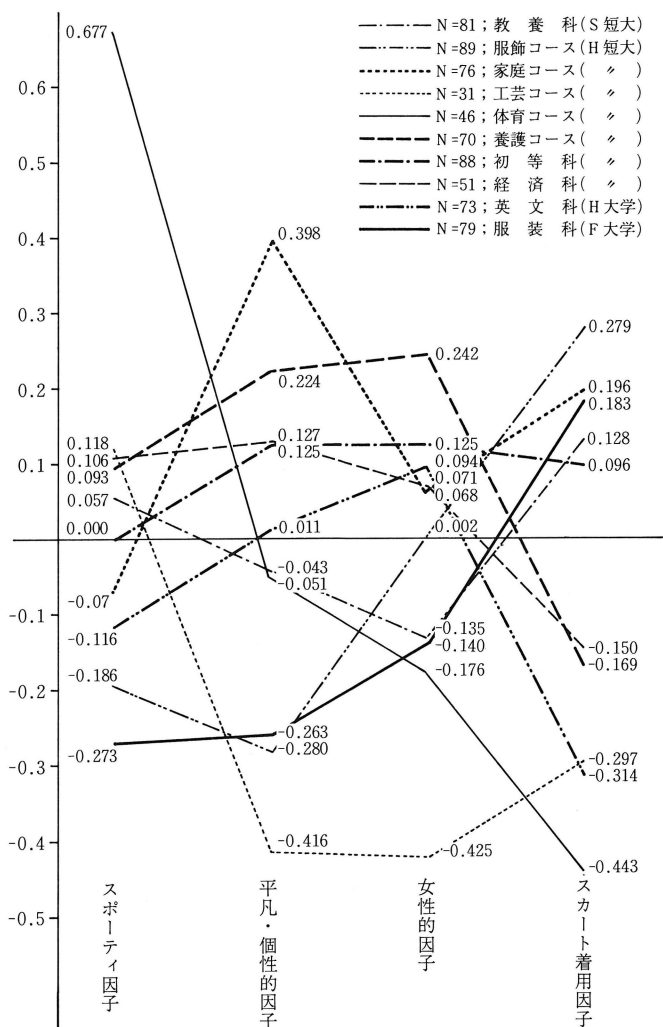


図3 専攻別因子得点平均値(主要4因子)

る項目であることから、得点平均値がプラスで抽出されたのは平凡的、マイナスで抽出されたのは個性的因子と考えられる。従って家庭コース、養護コースの被験者は平凡的な洋服を着用する傾向であり、工芸科、服飾コースと服装科は個性的な洋服を着用する傾向にあった。因子3の「女性的因子」では得点平均値が高く女性的な洋服を着用する傾向があるのは養護コース、初等科の被験者、得点平均値が低く女性的な洋服を着用しない傾向にあるのは工芸科、体育コースである。因子4の「スカート着用因子」で得点平均値が高くスカートを着用する傾向があるのは服飾コース、家庭コース、服装科の家政系の被験者で、体育コース、英文科、工芸科はスカートを着用しない傾向にあった。

2) 日常の被服行動と仕事に対する考え方および姿勢との関連

つぎに仕事に対する姿勢の相違と服装との関連をみるために、仕事に対する姿勢で相違がみられた被験者に対して、日常の被服行動で抽出された主要な4因子の因子得点の平均値を求めた。結果を図4に示す。

スポーティ因子で高い得点を示したのはキャリア志向型、平凡・個性的因子でプラス得点は平凡的、マイナス得点は個性的と解釈し平凡的であるのは家庭回帰型、個性的であるのはキャリア志向型、女性的因子得点で高いのは家庭回帰型、スカート着用因子では結婚退職型であった。これらのことから結婚退職型は、スカートを着用する傾向にあり、キャリア志向型は、スポーティな服装をする傾向、家庭回帰型は女性的な服装をする傾向にあることが判明した。ただし、結婚退職型(79名)にスカート着用が高く表出したことは図3よりスカート着用因子で高得点を示した服飾コース(13

名)と家庭コース(21名)の影響があることも推察でき、結婚退職型のスカート着用傾向の説明力は弱まるものと考えられる。

石田ら¹³⁾の被服行動とパーソナリティの関連からの研究によると内向的な人にスカートを着用する傾向がみられ、外向的な人がパンツを着用する傾向がみられると分析している。本報のキャリア志向型にスポーティな服装、結婚退職型にややス

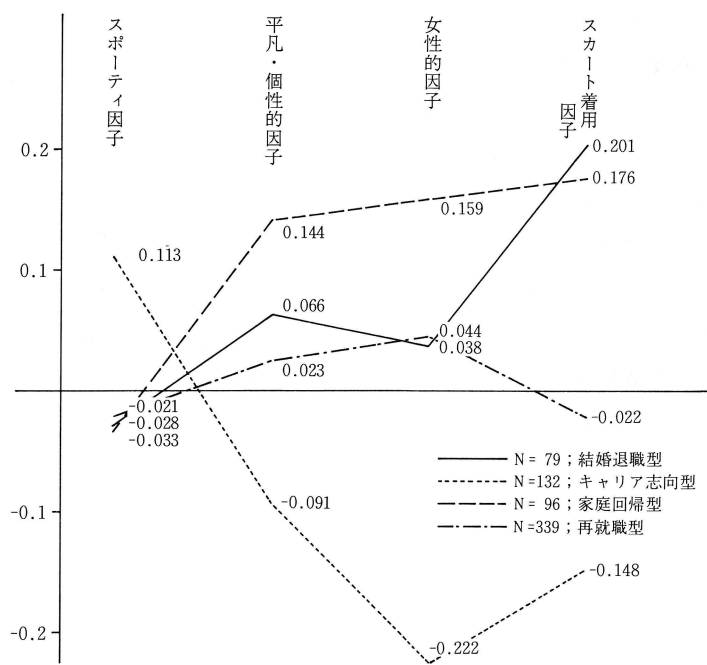


図4 被服行動因子と仕事に対する姿勢との関連 (因子得点平均値)

表10 被服行動と仕事に対する考え方との関連（因子得点平均値の差の検定）

| | 因子得点 | スポーティ因子 | | | 平凡・個性的因子 | | | 女性的因子 | | | スカート着用因子 | | |
|---------------|-------|---------|-------|--------|----------|-------|--------|-------|-------|---------|----------|-------|----------|
| | | 人数 | 平均値 | t 値 | 人数 | 平均値 | t 値 | 人数 | 平均値 | t 値 | 人数 | 平均値 | t 値 |
| 女性は家において | +1 以上 | 119 | 2.084 | | 72 | 2.125 | | 114 | 2.254 | | 109 | 2.266 | |
| 家事をするのが当然である | -1 以下 | 111 | 1.901 | - | 107 | 1.832 | 2.127* | 97 | 1.856 | 3.092** | 106 | 1.802 | 3.816*** |
| 残業が多くて | +1 以上 | 118 | 3.119 | | 72 | 3.056 | | 114 | 2.798 | | 108 | 2.870 | |
| やり甲斐のある仕事をしたい | -1 以下 | 111 | 2.883 | 1.979* | 107 | 3.056 | - | 96 | 3.031 | - | 106 | 3.142 | 2.125* |
| 仕事は忙しくとも | +1 以上 | 118 | 2.949 | | 72 | 2.958 | | 114 | 2.886 | | 108 | 2.704 | |
| 収入の多いほうがよい | -1 以下 | 111 | 2.739 | 2.006* | 107 | 2.897 | - | 96 | 3.000 | - | 106 | 2.858 | - |
| 仕事に成功して | +1 以上 | 117 | 2.709 | | 70 | 2.571 | | 114 | 2.596 | | 108 | 2.509 | |
| 社会的地位をあげたい | -1 以下 | 111 | 2.559 | - | 107 | 2.794 | - | 95 | 2.653 | - | 105 | 2.771 | 2.201* |
| 仕事よりも余暇や | +1 以上 | 118 | 3.203 | | 70 | 3.229 | | 114 | 3.158 | | 107 | 3.093 | |
| 趣味の生活を大切にしたい | -1 以下 | 109 | 2.991 | 2.271* | 105 | 3.114 | - | 93 | 3.108 | - | 102 | 2.951 | - |

*P<.05 **P<.01 ***P<.001

(－) 有意差ナシ

カートを着用する傾向が認められたことと共通する部分がある。すなわちキャリア志向型の社会に出て仕事をするという意志は性格的に社交性や外部の物事に関心を示すものと考えられ、また結婚退職型は社会よりも家庭に関心を持つということで家庭は社会よりも小さな集団でありキャリア志向型の外向性と内部に興味を示す内向性とを対比させて考えることも出来るからである。

つぎに、日常の被服行動と仕事に対する考え方との関連をみるために、因子分析で抽出された主要4因子の因子得点が+1以上の高得点者と-1以下の低得点者、すなわちその洋服を着用する傾向の強い人と弱い人で、仕事に対する考え方の相違を検討した。因子得点平均値の差の検定結果、有意差が認められた項目のみを表10に示す。

スポーティ因子で5%の危険率で有意差が認められた項目から、スポーティな洋服を着用する傾向の強い人は弱い人と比較した場合、残業が多くてやり甲斐のある仕事をしたい、仕事は忙しくとも収入の多いほうがよい、と仕事に対して積極的な姿勢がみられるが、仕事よりも余暇や趣味の生活を大切にしたいとしており、仕事と趣味生活の両立を図る意向が伺われた。

つぎに平凡・個性的因子で5%の危険率で、および女性的因子で1%の危険率で有意差が認められた項目より、平凡な洋服を着用する傾向の強い人は個性的な洋服を着用する人よりも、また女性的な洋服を着用する傾向の強い人も、女性は家において家事をするを当然と思う固定的な役割分担の考え方をしていた。

スカート着用因子では、0.1%の危険率でスカートを着用する傾向が強い人は女性は家において、家事をするのが当然とする固定的な役割分担の考え方をしており、スカートを着用する傾向の弱い人、すなわちスカートを着用する率が少ない人は危険率5%の有意差で残業が多くてやり甲斐のある仕事をしたい、仕事に成功して社会的地位をあげたいと仕事重視志向であった。

Ⅳ 要 約

ライフスタイル特性の一要因である職業観に視点をあて、女子学生が、自分のライフスタイルの中で職業をどのように捉え、この意識の相違が外見上の服装にどの程度に表出するかの知見を得ることを目的に、女子学生の職業意識、働く女性(キャリアウーマン)と専業主婦のイメージと服装スタイル、および日常の被服行動と職業意識との関連を検討した。

① 女子学生の仕事に対する考え方として、仕事重視志向か趣味生活志向かの8項目について、質問した結果、被験者は趣味生活志向ではあるが、仕事に対して積極的に取り組む姿勢が見受けられ、女性の社会進出は当然のことと考えていることが判明した。

② 仕事に対する考えと姿勢との関連では、約半数の被験者は子供に手がからなくなったら再び仕事をするを望む再就職型で、仕事に対する考え方は仕事と趣味生活の両立をはかる意向が伺えた。つぎに全体の約2割がキャリア志向型で専攻別には工芸科、初等科と英文科、服装科の4年制大学の被験者にみられ、仕事に対する考えは仕事重視志向であった。仕事は結婚までの一時的なものでよいとした結婚退職型は家庭コース、教養科に多く、仕事に対する考えでは趣味生活志向であった。

③ 職業を選択するときの重視項目として、回答率の高い項目から被験者は収入よりも自分の能力を生かすことや、興味のある職業につきたいと考えており、希望する職種は教員、繊維ファッション関係、運輸・観光関係、公務員、広告・デザイン関係が上位6職種であった。専攻別には初等科、養護コースに教員が多く、服飾コースと服装科には繊維ファッション関係、運輸・観光関係には教養科、英文科、経情科に、また広告・デザイン関係は工芸科、服装科の被験者が多く選択し、それぞれ専門を生かした職業を希望していた。また一般事務と公務員は教養科、服飾コース、家庭コース、経情科の被験者に選ばれていた。つぎに仕事に対する姿勢との関連では、どの職種も半数近く再就職型に選択され他の特徴として、キャリア志向が多く選択した職種は広告デザイン関係と教員で、服装科と初等科の被験者に多くみられた。家庭帰郷型の被験者は公務員、繊維ファッション関係が多く、結婚退職型は運輸・観光関係を多く選択していた。

④ 女性のライフサイクルの中での生き方を表す言葉として、キャリアウーマンと専業主婦という言葉に対するイメージを調査した。結果、キャリアウーマンは性格的にきつく活動的な雰囲気、生き方としては個性的で新しいイメージで、専業主婦は性格的に優しくおとなしい雰囲気で生き方としては平凡で古いイメージで捉えられていた。

⑤ キャリアウーマンと専業主婦の服装のイメージを記入してもらった結果、多くの被験者はキャリアウーマンはスーツにハイヒール、ブランド品のバックと服装イメージはステレオタイプ化していた。一方専業主婦は外出着であっても、トレーナー・Tシャツにジーパンなどふだん着を着用し、靴はスニーカー、大きな布製バックと近郊のスーパーなどに買物に行くスタイルのイメージであった。

⑥ 日常の被服行動についての質問項目の平均値から、被験者はスポーティでシンプルな洋服を着用し平凡な洋服を好み、柄物やフリルやリボンなどの飾りのある洋服はあまり着用しない傾向であることがわかった。また因子分析結果から抽出された「スポーティ」「平凡・個性的」「女性的」「スカート着用」の主要4因子にたいして因子得点平均値を算出し、専攻別による特徴を明かにした。結果体育コースはスポーティな洋服を着用する傾向、家庭コースは平凡な洋服を着用する傾向、工芸科、服飾コース、服装科は個性的な洋服を着用する傾向、養護コースは女性的な洋服を着用する傾向、服飾コース、家庭コース、服装科の家政系の被験者にスカートを着用する傾向があることが判明した。

⑦ 仕事に対する姿勢で相違がみられた被験者に対して、日常の被服行動についての質問項目から抽出された、主要4因子の因子得点平均値より仕事に対する姿勢と被服行動との関連を検討した。結果結婚退職型はスカートを着用する傾向にあったが、これはスカート着用因子で高得点を示した服飾コースと家庭コースの影響で表出したものと推察される。キャリア志向型はスポーティな洋服を着用する傾向、家庭回帰型は女性的な洋服を着用する傾向にあることが判明した。

⑧ 日常の被服行動と仕事に対する考え方との関連では、スポーティな洋服を着用する傾向の強い人は仕事に対して、仕事と趣味生活の両立を図る意向が伺われた。また平凡な洋服を着用する傾向の強い人と女性的な洋服を着用する傾向の強い人、およびスカートを着用する傾向の強い人も女性は、家にいて家事をすることを当然と思う固定的な役割分担の考え方をしており、スカートを着用する傾向の弱い人、すなわちスカートを着用する率が少ない人の仕事に対する考え方としては、仕事重視志向であることがわかった。

付 記

以上のように女子学生の職業意識と被服行動との関連について分析を行った結果、職業意識の相違が服装に現れることを明らかにできたが、被験者の専攻に特殊性があったために被服行動面からの一般化が困難であると考えられ、今後被服行動面からのアプローチで検討をかさねる必要があり、それを今後の研究課題としたい。

また本報の調査にあたり協力いただいた学生、ならびに質問紙作成にあたりご指導賜った共立女子大学小林茂雄氏、その他各関係の方々に感謝致します。

参 考 文 献

- 1) 井関利明他：ライフスタイル全書，ダイヤモンド社，p. 4～15，1975
- 2) 岡堂哲雄編：社会心理学用語事典，至文堂，p.324～325，1987
- 3) 中川早苗他：男子大学生のライフスタイルと被服行動に関する一考察，織消誌，Vol.29，No. 6，p.39～49，1988
- 4) 天野好野他：勤労者のライフスタイルと着装態度との関連について，奈良女子大学家政学研究，Vol.37，No. 2，p.86～96，1991

- 5) 労働省編：労働白書（平成3年版）－労働者，若年労働者の現状と課題－， p.168, 1991
- 6) 労働省編：労働白書（平成3年版）－労働者，若年労働者の現状と課題－， p.107～108, 1991
- 7) NHK 世論調査部：現代日本人の意識・構造〔第三版〕， NHK ブックス， p.67～69, 1991
- 8) 朝日新聞：平成6年8月6日掲載
- 9) 労働省編：労働白書（平成3年版）－労働者，若年労働者の現状と課題－， p.139, 1991
- 10) 日経流通新聞：平成6年6月9日掲載
- 11) 日本私立短期大学協会編：就職業務のためのマニュアル（第4版）， p.240～263, 1992
- 12) 矢尻世津子他：女性のふだん着の着用実態とその心理的な効果， 繊維誌， p.62～69, 1994
- 13) 石田清子他：被服行動とパーソナリティの関係（Ⅱ）， 広島女子大学家政学部紀要， p.81～91, 1989